



関西大学 社会安全学部・社会安全研究科
教授 広瀬 幸雄
専門分野 社会心理学・環境心理学

(学歴)

1964年4月1日	私立愛光学園高等学校	入学
1967年3月31日	私立愛光学園高等学校	卒業
1967年4月1日	京都大学法学部	入学
1969年4月1日	京都大学文学部	転学
1973年3月31日	京都大学文学部	卒業
1973年4月1日	京都大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程	入学
1975年3月31日	京都大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程	修了
1975年4月1日	京都大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	進学
1978年3月31日	京都大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	所定単位修得後退学

(学位及び論題)

1975年3月31日	文学修士（京都大学） 集団目標達成が地位分化ならびに報酬分配に及ぼす効果について
1996年9月30日	博士（心理学）名古屋大学 環境と消費の社会心理学：共益と私益のジレンマ

(職歴)

1978年4月1日	府立大阪女子大学助手（学芸学部）
1982年4月1日	名古屋大学講師（文学部）
1985年11月1日	名古屋大学助教授（文学部）
1990年9月26日	文部省在外研究でボストン・カレッジ客員研究員で出張（～1991年7月26日）
1995年6月1日	名古屋大学教授（文学部）
1999年12月1日	名古屋大学評議員（～2001年3月31日）
2000年4月1日	名古屋大学大学院教授（文学研究科）
2001年4月1日	名古屋大学大学院教授（環境学研究科）（～2011年3月31日）
2006年4月1日	名古屋大学大学院環境学研究科副研究科長（～2008年3月31日）
2011年4月1日	関西大学社会安全学部教授（～2016年3月31日）
2016年4月1日	関西大学社会安全学部特別契約教授（～2019年3月31日）

(非常勤講師歴)

1995年12月1日	茨城大学人文学部 心理学特論担当（～1996年3月31日）
1996年4月1日	中京大学文学部 社会心理学特殊講義担当（～2000年3月31日）
1997年10月1日	神戸大学文学部 心理学特殊講義担当（～1998年3月31日）
1997年12月1日	大阪大学人間科学部 社会心理学特殊講義担当（～1998年3月31日）
1998年11月1日	山形大学人文学部 心理学特殊講義担当（～1999年3月31日）
1998年12月1日	東京大学教育学部 比較教育社会学特論担当（～1999年3月31日）
1999年8月1日	東京大学文学部 社会心理学特殊講義担当（～1999年9月30日）
2000年10月1日	九州大学教育学部 人間行動コース特講担当（～2001年3月31日）
2001年4月1日	人間環境大学 人間環境学部 社会心理学担当（～2003年3月31日）
2001年10月1日	放送大学 社会心理学研究法担当（～2002年3月31日）
2003年4月1日	関西大学社会学部 心理学特定問題研究Ⅰ・Ⅱ担当（～2004年3月31日）
2005年10月1日	神戸大学文学部 心理学各論担当（～2006年3月31日）
2007年10月1日	九州大学大学院人間環境府 人間科学特講担当（～2008年3月31日）
2012年4月1日	京都女子大学発達教育学研究科社会心理学特論A担当（～2012年9月30日）

(賞罰)

1998年10月9日	日本心理学会研究奨励賞
2000年5月23日	廃棄物学会論文賞
2000年6月3日	日本シミュレーション&ゲーミング学会優秀賞
2006年11月3日	日本心理学会優秀論文賞
2011年5月29日	日本シミュレーション&ゲーミング学会賞
2014年3月6日	科学技術融合振興財団第7回FOST賞
2014年9月9日	日本心理学会優秀論文賞
2018年3月8日	科学技術融合振興財団第7回FOST社会貢献賞受賞

研 究 業 績

著書, 学術論文等の名称 (京都大学～関西大学)	単著・ 共著・ 分担執筆	発行の年月	発行所	雑誌等の名称, 「単著」は最初と最後の頁, 「共著」「分担執筆」は編著者・共著者名, 担当 部分の頁, 査読有の場合はその旨
(著書)				
1 社会心理学の展開	共著	1987年4月	北樹出版	永田良昭・船津衛(編) 94-102.
2 現代社会心理学	共著	1987年6月	有斐閣	三隅二不二(編) 170-186.
3 環境を考える	共著	1992年7月	名古屋大学出版会	名古屋大学公開講座委員会(編) 161-171.
4 社会心理学への招待	共著	1995年9月	有斐閣	高木修(編) 183-199.
5 環境と消費の社会心理学— 共益 と私益のジレンマ—	単著	1995年10月	名古屋大学出版会	1-243.
6 ごみから見える世界: ごみの不 思議なポジション	共著	1996年2月	公人の友社	市民とごみ再考フォーラム編 29-50.
7 シミュレーション世界の社会心 理学— ゲームで解く葛藤と共存 —	共著	1997年3月	ナカニシヤ出版	広瀬幸雄(編) 1-5, 11-23, 26-37.
8 心理学ラボの内外	共著	2001年6月	ナカニシヤ出版	辻敬一郎(編) 178-187.
9 社会的レシビとしてのリサイク ルシステムづくり	共著			NPO 法人ごみゼロネット大阪(編) 1-40.
10 快適環境の社会心理学	共著	2001年6月	ナカニシヤ出版	岩田 紀(編) 229-250.
11 環境学研究ソースブック— 伊勢 湾流入園の視点から—	共著	2005年12月	藤原書店	名古屋大学環境学研究科(編) 132-135.
12 Social Justice in Japan: Concepts, Theories and Paradigms	共著	2007年3月	Trans Pacific Press	Ohbuchi, K. (eds.) 264-290.
13 新版現代心理学	共著	2007年6月	培風館	八田武志(編) 145-152.
14 放送大学テキスト 心理学研究 法	共著	2008年3月	放送大学教育振興会	海保博之(編) 104-116.
15 環境行動の社会心理学	共著	2008年3月	北大路書房	広瀬幸雄(編) 1-6, 82-92, 104-113.
16 安全・安心を科学する	共著	2010年4月	産経新聞出版	関西大学社会安全学部(編) 45-48.
17 仮想世界ゲームから社会心理学 を学ぶ	共著	2011年3月	ナカニシヤ出版	広瀬幸雄(編) 1-35.
18 検証東日本大震災	共著	2012年12月	ミネルヴァ書房	関西大学社会安全学部(編) 254-268.
19 防災・減災のための社会安全学	共著	2014年3月	ミネルヴァ書房	関西大学社会安全学部(編) 81-97.
20 リスクガバナンスの社会心理 学	共著	2014年6月	ナカニシヤ出版	広瀬幸雄(編) 1-16, 65-84.
21 「国難」となる巨大災害に備える	共著	2015年6月	編者ひょうご震災記念21 世紀研究機構	第4章3.7 574-575. 原子力災害とリスク コミュニケーション
22 東日本大震災5年目の検証	共著	2016年3月	ミネルヴァ書房	関西大学社会安全学部(編) 第14章 290-307. 原発事故による社会経済問題へ の消費者・市民の反応
23 社会安全学入門	共著	2018年4月	ミネルヴァ書房	関西大学社会安全学部(編) 第8章, 第12 章, 第19章
(学術論文)				
1 集団目標達成が地位分化並びに 報酬分配に及ぼす効果について.	単著	1977年1月		実験社会心理学研究17巻1号 14-21. (査 読有)
2 社会的ジレンマゲームの実験研 究(1): 特にコミュニケーション と個人特性の要因に関して.	単著	1981年3月		社会福祉評論48号 35-56.
3 達成動機と原因帰属がパフォー マンスに及ぼす効果: Weiner の モデルの実験的検討.	共著	1982年8月		実験社会心理学研究22巻1号 広瀬幸雄・ 石井徹・木村昌幸・北田隆 27-36. (査読 有)
4 共有地の悲劇状況としての環境 問題についてのゲーム論的分析.	単著	1983年3月		名古屋大学文学部論集87巻 79-87.

5	水害経験と防災意識との関連についての調査研究.	共著	1984年6月		自然災害科学3巻1号 細井正延・長尾正志・広瀬幸雄・羽鳥明満 34-43. (査読有)
6	環境問題への消費者の対処行動の規定因.	単著	1985年1月		実験社会心理学研究25巻1号 47-52. (査読有)
7	買溜めパニックにおける消費者の意思決定モデル.	単著	1985年1月		社会心理学研究1巻1号 45-53. (査読有)
8	渇水事態における地域住民の態度と行動.	単著	1985年3月		名古屋大学文学部論集93巻 75-92.
9	社会システムのシミュレーション:SIMSOCの概要と試験的実施1.	共著	1985年6月		立命館文学 475-477号 門田幸太郎・木村昌幸・清水洵・広瀬幸雄・福岡市朗 301-320.
10	行為者および観察者の責任帰属と強制承諾状況における態度変容.	共著	1985年9月		心理学研究56巻5号 広瀬幸雄・北田隆 262-268. (査読有)
11	社会システムのシミュレーション:SIMSOCの概要と試験的実施2.	共著	1985年12月		立命館文学 485-486号 広瀬幸雄・福田市朗・門田幸太郎・木村昌幸・清水洵 1215-1252.
12	洗剤汚染事態における地域住民の態度と行動.	単著	1986年3月		名古屋大学文学部論集96巻 19-52.
13	危機事態における住民行動:共有地の悲劇における住民の態度と行動.	単著	1986年11月		社会・経済システム4号 42-46.
14	渇水時における住民の節水行動の規定因.	共著	1987年8月		社会心理学研究2巻2号 広瀬幸雄・北田隆 21-28. (査読有)
15	社会的ジレンマゲームの実験研究(2):マキアヴェリストはいつフリーライダーとなるのか.	単著	1988年3月		名古屋大学文学部論集102巻 89-105.
16	社会的ジレンマ事態における集団行動:集団間関係の研究法としてのSIMSOCの導入.	共著	1988年8月		実験社会心理学研究28巻1号 広瀬幸雄・奥田達也 21-33. (査読有)
17	模擬社会ゲームとは何か.	単著	1989年3月		名古屋大学文学部論集105巻 61-76.
18	Development of an educational gaming simulation of interregional conflict and cooperation.	単著	1990年7月		Proceedings of international forum for studies on the Pacific Rim Region, The University of Nagoya Press, 103-112.
19	模擬世界ゲーム.	単著	1990年3月		名古屋大学文学部論集108巻 133-164.
20	環境問題に関連する消費行動の意思決定モデル:Fishbein & Ajzenの態度・行動モデルの再検討.	単著	1992年8月		心理学評論35巻3号 339-360. (査読有)
21	環境問題へのアクションリサーチ:リサイクルのボランティア・グループの形成発展のプロセス.	単著	1993年8月		心理学評論37巻3号 373-397. (査読有)
22	環境配慮的行動の規定因について.	単著	1994年3月		社会心理学研究10巻2号 44-55. (査読有)
23	行政主導による資源リサイクルの普及過程:碧南市のごみ減量制度についての住民意識調査.	共著	1996年3月		環境社会心理学研究1号 広瀬幸雄・野波寛・杉浦淳吉・安藤香織(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 1-104.
24	Public water conservation efforts in an urban drought: The hierarchy of consumer needs.	単著	1996年7月		Proceedings of international conference on water resources & environment research. Water Resource Research Center, Kyoto University, Vol.2, 471-475. (査読有)
25	The effect of intra- and inter-group leadership on group goal attainment in a north-south gaming simulation.	共著	1997年5月		Japanese Psychological Research, vol.39, no.2 Lwin, M. & Hirose, Y. (共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 109-118. (査読有)
26	資源リサイクル行動の意思決定における多様なメディアの役割:パス解析モデルを用いた検討.	共著	1997年5月		心理学研究68巻4号 野波寛・杉浦淳吉・大沼進・山川肇・広瀬幸雄 264-271. (査読有)

広瀬幸雄教授 研究業績

27	環境教育のカリキュラムとしての模擬社会環境ゲームの開発.	共著	1997年12月		シミュレーション&ゲーミング7巻1号 広瀬幸雄・杉浦淳吉 7-16. (査読有)
28	環境ボランティアの活動が地域住民のリサイクルに関する認知・行動に及ぼす効果.	共著	1998年3月		社会心理学研究13巻2号 杉浦淳吉・大沼進・野波寛・広瀬幸雄 143-151. (査読有)
29	廃棄物処理における監視と罰則のジレンマを理解するための廃棄物ゲーム.	共著	1998年12月		シミュレーション&ゲーミング8巻1号 杉浦淳吉・広瀬幸雄 51-56. (査読有)
30	資源ごみ分別制度への住民評価に及ぼす情報接触と分別行動の効果.	共著	1999年3月		廃棄物学会論文誌10巻2号 杉浦淳吉・野波寛・広瀬幸雄 87-96. (査読有)
31	リサイクル活動へのコミットメントとボランティアのエンパワーメント:日進市・東郷町の環境ボランティアに対する意識調査.	共著	1999年3月		環境社会心理学研究3号 広瀬幸雄・杉浦淳吉・安藤香織・依藤佳世 1-84.
32	環境ボランティア団体における活動継続意図・積極的活動意図の規定因.	共著	1999年2月		社会心理学研究15巻2号 安藤香織・広瀬幸雄 90-99. (査読有)
33	資源リサイクル制度の導入に伴うごみ減量に関する意識行動の推移:日進市における住民意識調査.	共著	2000年3月		環境社会心理学研究4号 広瀬幸雄・杉浦淳吉・安藤香織・西和久・依藤佳世・垂澤由美子 1-85.
34	多元的現実を理解するためのメディアとしての仮想世界ゲーム.	単著	2000年3月		シミュレーション&ゲーミング10巻1号 14-21.
35	Playing SIMINSOC: Development of a simulation game for a new curriculum of environmental education.	単著	2000年7月		Proceedings of the 30 th ISAGA Conference 1-3.
36	環境学習の評価:グローバルな態度とローカルな行動を育てるために.	共著	2001年3月		地球環境戦略研究環境教育評価ワークショップ 広瀬幸雄・依藤佳世 33-44.
37	容器包装収集制度に対する住民の評価と行動:名古屋市における住民意識調査.	共著	2001年3月		環境社会心理学研究6号 広瀬幸雄・唐沢かおり・杉浦淳吉・大沼進・安藤香織・西和久・依藤佳世・垂澤由美子・前田洋枝 1-163.
38	社会の中のマイノリティはいかにして帰属意識を得るのか:仮想世界ゲームを用いて.	共著	2001年12月		シミュレーション&ゲーミング11巻2号 垂澤由美子・広瀬幸雄・大沼進 9-16. (査読有)
39	仮想世界ゲームにおける環境問題解決策選好の規定因.	共著	2002年6月		シミュレーション&ゲーミング12巻1号 大沼進・広瀬幸雄 33-43. (査読有)
40	子どものごみ減量行動を規定する要因について.	共著	2002年10月		環境教育12巻1号 依藤佳世・広瀬幸雄 26-36. (査読有)
41	Playing a simulation game of industrial wastes management as a new curriculum of environmental education.	単著	2002年7月		The international simulation and gaming yearbook, vol.11, 116-119. (査読有)
42	環境計画への市民参加とボランティアのエンパワーメント:日進市の一般廃棄物処理基本計画に対するボランティアの意識調査.	共著	2003年3月		環境社会心理学研究7号 広瀬幸雄・杉浦淳吉・大沼進・安藤香織・前田洋枝 1-154.
43	地球規模の環境問題への対処が先進・途上地域の世界帰属意識を高めるのか:仮想世界ゲームを用いて.	共著	2003年10月		シミュレーション&ゲーミング13巻1号 垂澤由美子・広瀬幸雄 14-20. (査読有)
44	Procedural fairness as evaluative yardstick of citizen participation in the public transport plan.	共著	2004年7月		Proceedings of The 3 rd ICTTP, IAAPdiv13/ Hirose,Y., Ohnuma,S., & Ando, K. 1-3.
45	環境ボランティアの資源リサイクル活動とエンパワーメント	共著	2004年9月		廃棄物学会論文誌15巻5号 前田洋枝・広瀬幸雄・安藤香織・杉浦淳吉・依藤佳世 398-407. (査読有)

46	Simulation game of industrial wastes management and its educational effect.	共著	2004年10月		Journal of Material Cycles and Waste Management, vol.6, no.1, Hirose, Y., Sugiura, J., & Shimomoto, K. 58-63. (査読有)
47	Management of social identity by members of low status groups: The perception of group homogeneity in a simulated society game.	共著	2004年10月		European Journal of Social Psychology, vol.34, Karasawa, M., Karasawa, K., & Hirose, Y. 613-625. (査読有)
48	環境に配慮した公共交通利用行動の規定因について：店舗利用型パーク・アンド・ライドの促進に向けた社会心理学的アプローチ.	共著	2004年10月		土木学会論文集, 772/IV -65 大友章司・広瀬幸雄・大沼進・杉浦淳吉・依藤佳世・加藤博和 203-213. (査読有)
49	On the genesis of habits and travel mode fixation: A comparison of the travel mode socialization in Germany, Japan and Sweden.	共著	2004年10月		Bericht aus der Fakultat fur Psychologie, AE Kognitions- und Umweltpsychologie, Nr. 57/2004. Bochum: Ruhr Universitat, Fakultat fur Psychologie, Bloebaum, A., Klockner, C.A., Matthies, E. Preisner, C.L., Schulte, R., Johansson, M., Brazel, C., Ando, K. Hirose, Y., Ohnuma, S. & Sugiura, J. 1-38. (査読有)
50	住民によるリサイクルシステムが資源分別制度の社会的受容に及ぼす効果.	共著	2005年1月		廃棄物学会論文誌16巻1号 依藤佳世・広瀬幸雄・杉浦淳吉・大沼進・萩原喜之 55-64. (査読有)
51	Why did residents accept a demanding rule: Fairness and social benefit as determinants of approval for a recycling system.	共著	2005年3月		Japanese Psychological Research, vol.47, no.1, Ohnuma, S., Hirose, Y., Karasawa, K., Yorifuji, K., & Sugiura, J. 1-11. (査読有)
52	Collective action and subordinate group identity in a simulated society game.	共著	2005年3月		Japanese Psychological Research, vol.47, no.1 Hirose, Y., Terasawa, Y., & Okuda, T. 12-21. (査読有)
53	市民参加による循環型社会の創生をめざしたステークホルダー会議の評価.	共著	2005年3月		社会技術研究論文集2巻, 柳下正治・石川雅紀・広瀬幸雄・杉浦淳吉・西村一彦・涌田幸宏・岡山朋子・水野洋子・前田洋枝・松野正太郎 49-58. (査読有)
54	市民参加型会議におけるエンパワメント評価.	共著	2005年3月		社会技術研究論文集2巻, 前田洋枝・広瀬幸雄・杉浦淳吉・柳下正治・松野正太郎 279-289. (査読有)
55	高等学校における環境教育のカリキュラムとしての産業廃棄物ゲームとその教育評価.	共著	2005年6月		シミュレーション&ゲーミング15巻1号, 大竹庫一・広瀬幸雄 15-23. (査読有)
56	成員の流動性が劣位集団における内集団共同行為と成員のアイデンティティに及ぼす影響.	共著	2006年10月		社会心理学研究 22巻1号, 垂澤由美子・広瀬幸雄 12-18. (査読有)
57	The dual-process of reactive and intentional decision making involved in eco-friendly behavior.	共著	2007年1月		Journal of environmental Psychology, vol.27, no.2, Ohtomo, S. & Hirose, Y. 17-25. (査読有)
58	日独における環境配慮行動の阻害要因の比較：フォーカス・グループの実施.	共著	2007年3月		人間文化研究科年報22号 安藤香織・広瀬幸雄・杉浦淳吉・大沼進・依藤佳世・大友章司・前田洋枝・Anke Bloebaum, Ellen Matthies 159-168.
59	交通計画への市民参加：カールスルーエでの試み.	単著	2007年8月		地域社会研究14号 5-13.
60	高等学校における産業廃棄物ゲームの実施とその教育効果：ディブリーフィングに注目して.	共著	2007年9月		環境教育16巻2号 大竹庫一・広瀬幸雄 14-23. (査読有)
61	自然災害のリスク関連行動における状況依存型決定と目標志向型決定の2重プロセス.	共著	2007年11月		社会心理学研究23巻2号 大友章司・広瀬幸雄 140-151. (査読有)

広瀬幸雄教授 研究業績

62	無作為抽出をもとにした市民会議参加者の代表性の検討.	共著	2008年3月		社会技術研究論文集5巻 前田洋枝・広瀬幸雄・杉浦淳吉・柳下正治 78-87. (査読有)
63	吉野川河口堰を事例とした市民と専門家の協働の類型とその変化.	共著	2008年5月		科学技術社会論5巻 大澤英昭・広瀬幸雄・寺本義也 93-109. (査読有)
64	環境教育への環境心理学からのアプローチ.	単著	2008年7月		環境情報科学37巻2号 36-40. (査読有)
65	Volunteers' empowerment as the determinant of citizen participation in making a waste management plan.	共著	2009年3月		Japanese Psychological Research, vol. 51, no.1. Maeda, H. & Hirose, Y. 24-34. (査読有)
66	公共事業計画の手続き的公正が事業主体の信頼に及ぼす影響と自由裁量の調整効果.	共著	2009年3月		土木学会論文集64巻4号 尾花恭介・広瀬幸雄 557-566 (査読有)
67	ドイツにおける公共計画への市民参加の手続き的公正について:レンゲリッヒ市とバイエルン州におけるプランニングセルの社会調査研究	共著	2009年3月		環境社会心理学研究9号 広瀬幸雄・大沼進・杉浦淳吉・前田洋枝・野波寛・大友章司 1-249.
68	吉野川第十堰を事例とした関係者への信頼、情報の理解の程度および関係者の意見の受け入れに関する要因.	共著	2009年3月		土木学会論文集65巻3号 大澤英昭・広瀬幸雄・尾花恭介 244-261. (査読有)
69	地域に根ざした水環境保全事業が住民の環境保全の意識・行動に及ぼす影響についての社会調査—高島市の湖岸集落を事例として—.	共著	2009年3月		水資源・環境研究22巻 新玉拓也・広瀬幸雄 25-36. (査読有)
70	感情状態が商品広告の情報処理方略に及ぼす影響について—情報の多重役割を中心に—.	共著	2010年10月		人間環境学研究8巻 大友章司・竹島久美子・広瀬幸雄 123-132. (査読有)
71	Cultural differences of a dual-motivation model on health risk behaviour.	共著	2011年1月		Journal of Risk Research, Vol.14 NO.1 Ohtomo, S., Hirose, Y., & Midden, C. 85-96. (査読有)
72	ドイツにおける係争的な公共計画での市民参加の手続き的公正と信頼についての調査研究.	共著	2011年4月		環境社会心理学研究16号 広瀬幸雄・野波寛・杉浦淳吉・大沼進・前田洋枝・大友章司 1-154.
73	廃棄物発生抑制行動の心理的規定因.	共著	2012年3月		環境科学会誌25号 前田洋枝・広瀬幸雄 87-94. (査読有)
74	住民参加による河川整備計画の社会的受容と計画実現にむけた住民の協力意図とそれぞれの規定因.	共著	2013年3月		社会安全学研究3号 柴田恵理砂・広瀬幸雄 3-19. (査読有)
75	精緻化見込みモデルから考察したNIMBY型事業の受容に及ぼす手続き的公正さの影響.	共著	2013年11月		土木学会論文集D3, 69巻4号 尾花恭介・広瀬幸雄・藤井聡 267-275. (査読有)
76	震災後の買い留め、買い控え行動の消費者の心理プロセスの検討.	共著	2014年2月		心理学研究84巻6号 大友章司・広瀬幸雄 557-565. (査読有)
77	市民参加型ごみ処理基本計画が市民に受け入れられ、行政の信頼を醸成するために何が必要か.	共著	2014年3月		社会安全学研究4号 広瀬幸雄・大友章司 43-50. (査読有)
78	フランスにおける高レベル放射性廃棄物管理方策とサイト選定の決定プロセスの公正さ.	共著	2014年3月		社会安全学研究4 大澤英昭・広瀬幸雄・大沼進・大友章司 51-76. (査読有)
79	福島原子力発電所事故による高レベル放射性廃棄物の地層処分の社会的受容の変化.	共著	2014年6月		日本リスク研究学会誌24巻1号 大友章司・大澤英昭・広瀬幸雄・大沼進 49-59. (査読有)

80	震災がれき受け入れ是非のリスクコミュニケーションゲームの作成.	単著	2014年12月		シミュレーション&ゲーミング24巻1号 1-8. (査読有)
81	集団間の資源格差が劣位集団の集合行為とアイデンティティに及ぼす影響.	共著	2014年12月		人間環境学研究12巻2号 垂澤由美子・広瀬幸雄 119-124. (査読有)
82	手続的公正と行政への信頼がごみ収集手数料の値上げの受容に及ぼす効果.	共著	2015年3月		社会安全学研究5号 広瀬幸雄・大友章司 15-22. (査読有)
83	Two phase decision making model of environmental conscious behavior and its application for the waste reduction behavior	単著	2015年3月		社会安全学研究5号 81-91.
84	Effects of voice and similarity on procedural fairness and trust.	共著	2015年9月		Asian Journal of social psychology, Vol.18, No.2. Nonami, H., Hirose Y. Ohnuma, S., Midden, C & Ohtomo, S. 216-224. (査読有)
85	Action Program to Develop Community Recycling System by Environmental Volunteers	単著	2016年3月		社会安全学研究6号 115-122.
86	フランスにおける高レベル放射性廃棄物地層処分施設の立地受容の規定因	共著	2016年5月		社会技術研究12号 大澤英昭・大沼進・大友章司・広瀬幸雄 86-95. (査読有)
87	Environmental education by playing an industrial waste game: A comparison between Chinese, Korean, and Japanese university students.	共著	2016年6月		Maeda, H., Hirose, Y., & Ohana, K. T. Kaneda (ed.) Simulation and gaming in the network society. Springer 357-368. (査読有)
88	公共事業の受容に影響を及ぼす要因の包括的理解のためのフレームワーク	共著	2017年3月		土木学会論文集 D3 尾花恭介・藤井聡・広瀬幸雄 97-102. (査読有)
89	無知のヴェールは合意形成を促進するか：指定廃棄物処分立地ゲームを用いた検討	共著	2017年3月		シミュレーション&ゲーミング26巻 横山実紀・大沼進・広瀬幸雄 21-32. (査読有)
90	NIMBY 型公共計画の合意形成ゲームの開発	共著	2018年3月		社会安全学研究8号 広瀬幸雄・大沼進・横山実紀 83-90.
(口頭発表 (国際学会等発表のうち最近のもの))					
1	Procedural fairness of citizen participation as determinant of waste management plan. Abstract book of 6th Biennial Conference on Environmental Psychology, Bochum, Germany.		2005年9月		Hirose, Y. & Ohtomo, S. P.3.
2	Comparing the determinants of environmentally-conscious behaviors in Germany and Japan. Abstract book of 6th Biennial Conference on Environmental Psychology, Bochum, Germany.		2005年9月		Ando, K., Ohnuma, S., Blöbaum, A., Matthies, E., Hirose, Y. & Sugiura, J. P.52.
3	Comparing collective action as an environmental protection in Germany and Japan. Abstract book of 6th Biennial Conference on Environmental Psychology, Bochum, Germany.		2005年9月		Sugiura, J., Ohnuma, S., Blöbaum, A., Ando, K., Matthies, E. & Hirose, Y. P.53

広瀬幸雄教授 研究業績

4	Perceived behavior control as switching function in the dual processing mode of the environmentally conscious behaviour. Abstract book of 6th Biennial Conference on Environmental Psychology, Bochum, Germany.		2005年9月		Ohtomo, S. & Hirose, Y. P.60.
5	The effect of volunteers' commitment to beach cleanup campaign on their empowerments and intention to participate in further activities. Abstract book of 6th Biennial Conference on Environmental Psychology, Bochum, Germany.		2005年9月		Maeda, H. & Hirose, Y. P.38
6	Procedural fairness of citizen participation as determinant of public acceptance of rate raising of garbage collection. 26th International Congress of Applied Psychology. Athens, Greece.		2006年7月		Hirose, Y. & Ohtomo, S.
7	The inhibiting effect of activation of negative prototype image on reactive decision of an environment unfriendly behavior. 26th International Congress of Applied Psychology. Athens, Greece.		2006年7月		Ohtomo, S. & Hirose, Y.
8	Effects of procedural and distributive fairness for other groups on acceptance of cost allocation in commons dilemma situation. Abstract book of 10th European Congress Psychology, Prague, the Czech Republic.		2007年8月		Hirose, Y., Ohtomo, S., Ohnuma, S., & Nonami, H. P.132.
9	Procedural fairness as a determinant of policy support via a citizen participation project: a case study of planning-cells in Lengerich. Abstract book of 10th European Congress Psychology, Prague, the Czech Republic.		2007年8月		Ohnuma, S., Hirose, Y., Nonami, H., Sugiura, J. P.154.
10	Effects of voice and similarity on the procedural fairness: Trust in both authority and delegates in social decisions. Abstract book of 10th European Congress Psychology, Prague, the Czech Republic.		2007年8月		Nonami, H., Hirose, Y., Ohnuma, S., & Midden, C. L. H. P.140.

11	Comparison between participants and non-participants in a citizen participation program in terms of procedural fairness and its relevant factors: A case study in Bavaria, "Citizens' report for health". Abstract Book of 7th Biennial Conference on Environmental Psychology, Bayreuth, Germany.		2007年9月		Sugiura, J., Hirose, Y. Ohnuma, S. & Maeda, H. P.70.
12	Could the citizens gain their empowerments by involving participation of the planning cells?. Abstract Book of The 7th Biennial Conference on Environmental Psychology, Bayreuth, Germany.		2007年9月		Maeda, H., Hirose, Y. Sugiura, J. & Ohnuma, S. P.34.
13	The influences of situation-oriented and goal-oriented decision-making on health risk. The 16th Society for Risk Analysis Europe Conference. The Hague, the Netherlands.		2007年6月		Ohtomo, S., Hirose, Y., & Midden, C.J.H. P.64.
14	Empowerment as the determinants of citizen-participation for environmental management plan.II International Conference on Community Psychology, Lisboa, Portugal.		2008年6月		Maeda, H. & Hirose, Y. P.100-101.
15	Citizen participation in environmental management and empowerment as its determinant., II International Conference on Community Psychology, Lisboa, Portugal.		2008年6月		Hirose, Y. & Maeda, H. P.1.
16	When does procedural fairness influence on acceptance of environmental plan? Moderating effect of trust in authority. XXIX International Congress of Psychology, Berlin, Germany.		2008年7月		Hirose, Y. & Ohtomo, S.
17	Effects of participation in the social decision process on social acceptance: A case study in Bavaria. XXIX International Congress of Psychology, Berlin, Germany.		2008年7月		Ohnuma, S. Hirose, Y. Sugiura, J. & Maeda, H.
18	Effects of voice and similarity on procedural fairness and trust: Experiments in Japan & the Netherlands. XXIX International Congress of Psychology, Berlin, Germany.		2008年7月		Nonami, H., Hirose, Y., Ohnuma, S. & Midden, C.J.H.

広瀬幸雄教授 研究業績

19	Comparison between participants and non-participants in a citizen participation program in terms of intention to participate and empowerment. 8th Biennial Conference on Environmental Psychology, Zurich, Switzerland.		2009年9月		Maeda, H., Hirose, Y., Sugiura, J., Ohnuma, S. P.81.
20	Effects of voice and similarity on social acceptance; Procedural fairness and trust in delegates. 8th Biennial Conference on Environmental Psychology, Zurich, Switzerland.		2009年9月		Nonami, H., Hirose, Y., Ohnuma, S., Midden, C. P.170.
21	Effects of value similarity and procedural fairness on social acceptance: a case study of tram system in Neuss. 21st International Association of People-Environment Studies Conference, Leipzig, Germany.		2010年6月		Ohnuma, S. Hirose, Y. Sugiura, J. & Maeda, H P.169-170.
22	Enhancing acceptance of social decisions by procedural fairness and trust: the moderating role of issue importance. 20 th SRS-Europe Meeting, Stuttgart, Germany.		2011年6月		Ohtomo, S. & Hirose, Y.
23	The two-phase model of reduce and reuse behaviors. 9th Biennial Conference on Environmental Psychology, Eindhoven, the Netherlands.		2011年9月		Maeda, H. & Hirose, Y.
24	The inhibiting effect of unintended motivation for wastage on energy conservation behavior. 9th Biennial Conference on Environmental Psychology, Eindhoven, the Netherlands.		2011年9月		Ohtomo, S. & Hirose, Y.
25	Determinants of avoidant purchasing behaviors due to fear of radioactive pollution. 21th SRS-Europe Meeting, Zurich, switzerland.		2012年6月		Ohtomo, S. & Hirose, Y. P.92-93.
26	The impacts of Fukushima nuclear accident on public acceptance of geological disposal of high level radioactive waste. 22th SRS-Europe Meeting, Trondheim, Norway.		2013年6月		Ohtomo, S., Hirose, Y. & Ohnuma, S. P.126.
27	Determinants of public acceptance in order to site a facility for high-level radioactive waste in France. 28th International Congress of Applied Psychology, Paris, France.		2014年7月		Osawa, H., Hirose, Y., Ohnuma, S. & Ohtomo, S.

28	Intergenerational and interregional justice for policy acceptance of geological disposal of high-level radioactive waste: a case study in France. 28th International Congress of Applied Psychology, Paris, France.		2014年7月		Ohnuma, S., Hirose, Y., Osawa, H. & Ohtomo, S
29	Determinants on public acceptance of siting a facility for high-level radioactive waste in the UK 24th SRS-Europe Meeting, Marstricht, The Netherlands.		2015年6月		Ohnuma, S., Hirose, Y., Osawa, H. & Ohtomo, S. P.160.
30	Environmental education by playing an industrial waste game: A comparison between Chinese, Korean, and Japanese university students, the 46th annual conference of ISAGA, Kyoto, Japan.		2015年7月		Maeda, H., Ohana, K., & Hirose, Y.
31	Citizen participation and consensus building in environmental planning after the Fukushima nuclear accident. The 5th international symposium of revitalization strategies after radiation disaster, Hiroshima University, Hiroshima, Japan.		2016年2月		Hirose, Y.
32	The framing effects of compensation on acceptance of NIMBY facility: A scenario experiment of High level radioactive waste geological repository. Society for Risk Analysis, Asia Conference, Osaka, Japan		2018年3月		Ohtomo, S., Hirose, Y., & Ohnuma, S.
33	Psychological approach for siting a NIMBY facility: Assessing public acceptance of a geological repository for radioactive wastes. 29th congress of applied psychology, 29th, June, Montreal Canada		2018年6月		Ohtomo, S., Hirose, Y., Ohnuma, S., & Osawa, H.

資金制度・研究費名	役割 (代表・分担)	期間	研究経費 (期間全体の額) (単位・円)	研究テーマ	
文部科学省科学研究費補助金					
1	基盤研究C	代表	1994～1995年	1,800,000	環境教育の新カリキュラムとしての模擬世界環境ゲームの開発
2	基盤研究C	代表	1996～1998年	2,200,000	環境ボランティアによるネットワーク・プロセスの分析
3	基盤研究C	代表	2000～2002年	2,800,000	環境ボランティアのネットワークとエンパワメント機能の環境心理学的研究
4	基盤研究B	代表	2002～2004年	11,600,000	環境配慮行動の規定困に関する日独比較調査: 社会文化的影響に関する環境心理学的研究
5	基盤研究B	代表	2003～2005年	5,000,000	ごみ減量制度への住民の合意形成とその規定困に関する環境心理学的研究
6	基盤研究B	代表	2005～2007年	12,200,000	環境計画の社会的受容と市民参加手続きの公正さに関する日欧比較調査

広瀬幸雄教授 研究業績

7	基盤研究B	代表	2008～2010年	12,700,000	市民参加による環境計画における手続き的公正と信頼に関する日欧比較調査研究
8	基盤研究B	代表	2012～2014年	14,000,000	高レベル放射性廃棄物地層処分政策の社会的受容の規定因に関する日欧比較調査研究
9	基盤研究B	代表	2016～2018年	14,000,000	高レベル放射性廃棄物地層処分の合意形成での手続き的・分配的公正機能の日欧比較
(競争的資金)					
10	カシオ科学振興財団研究助成	代表	1987～1988年	1,000,000	教育技法としての異文化理解ゲームの開発
11	石田財団研究助成	代表	1989～1990年	1,000,000	環境教育のカリキュラムとしての生活環境ゲームの開発
12	科学技術融合振興財団委託研究	代表	1998～2000年	1,800,000	地球規模環境問題の教育技法としての仮想世界ゲームの完成
13	科学技術融合振興財団委託研究	代表	2001～2002年	1,880,000	個人・組織間の葛藤解決と合意形成の学習プログラムとしてのゲームシミュレーションの開発
14	科学技術融合振興財団委託研究	代表	2004～2005年	1,100,000	環境計画への市民参加と合意形成の学習プログラムとしてのゲームシミュレーションの開発
15	科学技術融合振興財団委託研究	代表	2006～2008年	1,220,000	開発途上国における環境教育のためのゲーミングの開発と普及のための調査研究
16	科学技術融合振興財団委託研究	代表	2011～2012年	1,000,000	ゲーミングを用いた市民参加型会議による環境計画策定の合意形成と社会的受容に関する研究
17	科学技術融合振興財団委託研究	代表	2015～2016年	840,000	多段階の公正な手続きプロセスを含むゲーミングを用いたNIMBY型公共事業の合意形成に関する研究
以下、フリー記入					
(主な所属学会及び社会的活動等)					
日本心理学会 日本社会心理学会 日本リスク研究学会 土木学会 日本シミュレーション & ゲーミング学会 ISAGA 学会 (国際シミュレーション & ゲーミング 学会)					

